平成26年8月丹波市豪雨災害復興イベント

心つなぐ「和一処（わっしょい）」

◇8月26日（土）

「被災地間交流イベント・わしらの福興祭」

新潟県中越大震災からの復興に取り組む地域と深い関係を築き、地域社会の活性化をめざすため、被災地間交流イベントを開催します。

■主催 / うちの花は赤いプロジェクト
■後援 /（一財）地域活性化センター
○福興ステージ
■とき / 午後1時～3時
■ところ / ライヒピアいちじま　大ホール
■内容 / 人生講話、漫才、演劇、山古志盆踊り
○芝生イベント（復興感謝市）
■とき / 午後3時～7時
■ところ / 三ツ塚史跡公園（愛育館前芝生広場）
■内容 / 丹波市、新潟県山古志村による特産品の出店、ステージイベントなど
※このイベントは（公財）地域社会振興財団の長寿社会づくりソフト事業助成を受け実施します。

◇8月27日（日）

「復興から発信するまちづくりシンポジウム」

豪雨災害からの復興の成功モデルを発信し、市全体のまちづくりに繋げるため、シンポジウムを開催します。

■主催 / 丹波市
■とき / 午後1時～3時
■ところ / ライフピアいちじま　大ホール
■内容 / 第1部 基調講演　講師：田口太郎さん（徳島大学総合科学部准教授）
第2部 パネルディスカッション「復興モデルから考える新しいまちづくり」
コーディネーター：岡絵里子さん（関西大学環境都市工学部教授）
パネリスト：丹波市豪雨災害から復興に取り組むグループの代表者ら4人

問復興推進室（市島支所内）☎85‐4622

23rd　丹波の森国際音楽祭

シューベルティアーデたんば2017

「シューベルティアーデたんば」は、シューベルトが友人を自宅に呼んで開いたような、アットホームなコンサートをしようと企画されました。

9月9日（土）～11月11日（土）に「森に広がる源流の響き」をテーマに、丹波地域12カ所で開催します。シンボルアーティストにヴァイオリニストの伊左治道生さん、ガラ・コンサートにはバリトン歌手フランツェスク・オルテガ・イ・マルティ（フライブルク音楽大学 学生）さんを迎えます。

◇オープニング・サロンコンサート ～弦の脈動～
■とき / 9月9日（土）午後1時～2時30分、午後3時30分～5時の2回公演
■ところ / お菓子の里丹波　ミオール館（篠山市）
■料金 / 3,000円（当日500円増）全席自由
※ケーキ・お茶付き
■出演 / バロック・ヴァイオリン：伊左治道生　リュート＆19世紀ギター：佐野健二　ヴィオラ・ダ・ガンバ：大西万喜　テノール：畑儀文

◇ガラ・コンサート ～バロックの響・スペインの声・シューベルトの心～
■とき /11月11日（土）午後1時30分～
■ところ / 丹波の森公苑ホール
■料金 / 大人2,500円　中・高校生1,000円（当日500円増）※小学生以下無料（要整理券）
■出演 / ヴァイオリン＆バロック・ヴァイオリン：伊左治道生　バリトン：フランツェスク・オルテガ・イ・マルティ　リコーダー：村田佳生　チェンバロ：三橋桜子　ピアノ：城村奈都子　テノール：畑儀文

◆街角コンサート
期間中の土曜・日曜日を中心に丹波地域の施設でコンサートを行います。詳しくは各支所に配布しているパンフレットをご覧ください。

シンボルアーティスト伊左治道生さん

問シューベルティアーデたんば実行委員会事務局（丹波の森公苑文化振興部内）☎72‐5170

市長コラム

丹波語り

任期も人生も 起承転結！

私は公約で「これから10年、丹波市をガラリと変えましょう！」と大言壮語しました。任期（2016年から2020年）の4年間にドラマを創りたいと考え、意識したのが「起承転結」。2019年を「転」にすべく、諸施設や取組みを完成させる青写真を描きました。

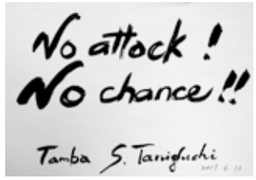
というのも、私は手紙をよく書く方で、読む方に分かりやすく、楽しく理解してもらえる工夫として、常に意識しているのが「起承転結」なのです。4年間を分かりやすく伝え、ワクワクドキドキしてもらえるように手紙の要諦にあてはめました。

多くの事業が花開く2019年を、最も大事で相手をドキッとさせる「転」に選びました。4年間には、10年分の仕事を集約したような事業が続きます。統合新病院、柏原支所観光拠点、市民活動プラザ、農の学校、水分れ資料館リニューアル、丹波市の歌など。2019年を「丹波市元年」にと考えていたら、改元するかもしれないと聞き、びっくりするやら嬉しいやら…。

計画を立てながら、人生を20年ごとに刻むと「起承転結」になるという面白いことに気づきました。「起」は誕生から20歳、学業を修め、人格を形成する時期。「承」は20～40歳。社会に出て、地歩を築く期間。40～60歳が「転」。人生の目標を実現する充実期。60歳以降の20年が「結」。人生の総仕上げ期でしょうか。

私は、既に人生の「結」の境地。その中に、「起承転結」のアクセントを付け、2019年を「転」の年にしたいと日々チャレンジしています。

丹波市長 谷口進一



丹波市 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

丹波の宝を探し、研磨する

高木理恵さん　vol.9

経歴：大阪市出身。アパレル企業でマーチャンダイザー（市場戦略）としてブランディング、商品企画、販路開拓に携わる。神戸発ファッション雑誌ディレクター経験も。

はじめまして。平成27年8月から地域おこし協力隊として、観光・特産物の魅力強化に携わる、高木理恵です。

地域おこしといえば、どうしても「0から何かを生み出さなければならない」「斬新なアイデアを出さなければならない」と思われがちです。しかし、私は、今ある宝を発見し、研磨することこそが、魅力的に発信する近道だと考えています。

移住してから、市には、都会にない「歴史・風土」から産まれた宝が多く眠っていると感じました。しかし、一方で地元の方は、日々の暮らしの中で、身近にあるものが宝だとは気付きにくいということも感じました。

だからこそ、移住者である私が宝を見つけ、地域の方と知恵を出し合いながら研磨すること、研磨したものを風（情報）として広く流すことが任務だと思っています。

協力隊の活動報告をする高木隊員